

12:9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。

12:10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。

12:11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。

12:12 望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。

12:13 聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。

12:14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。

主イエスが言われたように、クリスチャンと言っても「世にあっては患難が」あります。ですから、世の人と同じような「生きにくさ」も感じるでしょう。そのようなときも、「聖い生きた備えもの」として歩んでいるなら、乗り越えることができます。

「互いに自分よりまさっている」という考えは、人間関係を明るくものにします。「勤勉」な生き方は社会的な部分を好転させるでしょう。「迫害する者と祝福するなら」人間関係の勝利者になることができます。「神の怒り」があるからです。

信仰によって、神のみことろと神の国の原理に沿って生きて、勝利を得ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

